

# 幼児健康情報—乳幼児健診受診 行動を修飾する母体側の要因

研究協力者

竹本 泰一郎(長崎大・医・公衆衛生)

## はじめに

長崎県諫早市内の4～6歳児143名を対象とした健康調査によって、調査時点での健康状態が出生時の異常、およびそれまでの罹病像と関わっていることを昨年度の報告で指摘した。しかし、母親を通しての自記式の質問紙という調査方法の限界もあり、縦断的な健康状態の推移については分析が不十分であった。本年度の調査においては、町役場に保管されている健康情報を活用して出生コホートの設定を試み、乳児健診と3歳児健診との関連について検討した。

## 方 法

昭和50年4月2日から51年4月1日までに出生し、56年4月現在、長崎県諫早保健所管内の7町(小長井、高来、吾妻、愛野、森山、飯盛、多良見)に居住している幼児831名を対象とした。831名の中には、上記7町以外で生まれて、途中転入して来たものが含まれている。各町役場に保管してある母子健康管理カードより抜き出した個人別のデータをもとに、以下の分析を行なった。なお、この健康管理カードは、母子手帳の記載事項が保健婦によって転記され、さらにその後の定期健康診断の結果が書き加えられたものである。

## 結 果

### (1) 各健診の受診状況

生下時体重がわかっているものの割合、および4回の乳幼児健診の受診状況を表1に示す。生下時体重は、763名(91.8%)について得られた。4回の乳幼児健診を受診した者の割合は、67～73%であった。

### (2) 受診回数による受診行動の分類

生下時体重の有無、および4回の健診(3ヶ月

時、6ヶ月時、1歳時、3歳時)の受診状況によって、6つのグループを設定した(表2)。生下時体重の記載がなかった68名(グループOUT)には、他町からの転入者が含まれていると考えられた。生下時体重が得られた763名(91.8%)のうち、336名(40.4%)は4回の乳幼児健診すべてを受診していた(グループB・ALL)。また413名(49.7%)は、4回の健診のうち1～3回受診していた(グループB・1, B・2, B・3)。なお、生下時の体重はあっても、以後1回も受診していない者が14名(1.7%)みられた(グループB・0)。

### (3) 受診回数と健診の選択

受診回数と特定の健診の選択、との関連をグループB・1(4回のうち1回受診)、およびグループB・3(4回のうち1回未受診)について検討した。表3にはグループB・1につき、健診別の受診者数を示す。4回の健診のうち1回しか受診しない場合には、3歳児健診が選択される傾向が明らかである。

表4には、グループB・3につき、健診別の未受診者数を示す。4回の健診のうち3回受診して1回は受診しない場合、未受診の1回として3歳児健診が選択される傾向のあることが明らかである。

### (4) 受診行動と母体側の要因

表5に受診行動グループ別に、母体側のいくつかの要因について、その情報が不明なものの割合を示す。B・0とB・1、およびB・2とB・3については、それぞれ1つのグループとして示した。すべての健診を受診したB・ALL群、および2～3回受診した(B・2, B・3)群に比較して、生下時体重が不明のOUT群、および健診を0～1回しか受診していない(B・0, B・1)群において、情報不明者の占める割合が著しく高い。よって受診行動グループ間で、母体側の要因を比較するに当たり、不明者の割合が低い母親の出産時年齢については4グループで比較したが、他の要因については、(B・2, B・3)グループとB・ALLグループの間で比較した。

母親の出産時年齢の比較(表6)：(B・0, B・1)群と(B・2, B・3)群, および(B・0, B・1)群とB・ALL群との間の差はいずれも有意であり, 健診を受診する回数が少ない群は, 多い群に比較して母親の出産時年齢が高い傾向が認められた。

(B・2・B・3)群とB・ALL群との比較：表7にも検定で平均値を比較した結果を示す。7つの平均値すべてについて, (B・2, B・3)群はB・ALL群に比較して高値を示したが, 有意差は妊娠届出月数のみで認められた。

母親の職業, 家族類型について2群間で比較した結果を表8, 表9に示す。B・ALL群に比較して, (B・2, B・3)群は無職が多く, 農・漁業に従事している人が少ない(表8)。さらに(B・2・B・3)群の方が商業・勤務の人の割合がやや多い。二群間に表われた職業分布の差は有意であった( $d.f.=2, x^2=6.797^*$ )。家族類型の割合でも二群間に有意な差が認められ( $d.f.=1, x^2=5.784^*$ )、(B・2, B・3)群はB・ALL群に比較して核家族の割合が高く, 逆に拡大家族の割合の低いことが明らかになった。

(5) 受診行動と発育状況(表10)：

出生後3歳児健診に到るまでの体重の発育を, (B・2, B・3)群とB・ALL群との間で比較した。1歳児健診の体重で, B・ALL群の方が有意に高い値を示したが, 他の時点での体重に差はみられなかった。

ま と め

(1) 受診回数と, 特定の健診の選択的受診/非

表1. 健診の受診状況

	生下時*	3カ月健診	6カ月健診	1歳児健診	3歳時児診
受診割合	763/831	586/831	601/831	559/831	608/831
(%)	(91.8)	(70.5)	(72.3)	(67.3)	(73.2)

\* 生下時体重がわかっている者の割合

受診との関連を検討したところ, 4回の健診のうち1回だけ受診する場合, または3回受診して1回だけ受診しない場合において, ともにその特定の受診, あるいは非受診の対象として, 3歳児健診がより多く選択される傾向が明らかになった。

(2) 健診を受診する回数が少ない群(4回の健診中2~3回受診)は, 4回すべて受診した群に比較して以下のような特徴を持つことが明らかになった；①母親の出産時年齢が高い, ②妊娠届出月数が遅い, ③母親の職業で, 無職が多く農・漁業に従事している人の割合が少ない, ④核家族の割合が多い。

(3) 乳幼児健診を0~1回しか受診していない群では, 母体側の要因等の項目で50%以下の人についてしか情報が得られず, 2回以上受診した群と比較して受診状況を修飾する要因について探ることが困難であった。

次年度以降の計画

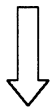
(1) 現在引きつづき観察中の諫早保健所管内7町の幼児831名にくわえて, 諫早市内居住の幼児についても健康情報を把握し, 3歳児健診後就学時健診に到るまでの発育状況と, 受診状況との関連を検討する。

(2) 何らかの異常を出生時に経験した児がその後とる受診行動について分析をすすめ, 乳幼児健診と就学時健診のはたしている役割を分析する。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

長崎県諫早市内の4~6歳児143名を対象とした健康調査によって、調査時点での健康状態が出生時の異常、およびそれまでの罹病像と関わっていることを昨年次の報告で指摘した。しかし、母親を通しての自記式の質問紙という調査方法の限界もあり、縦断的な健康状態の推移については分析が不十分であった。本年次の調査においては、町役場に保管されている健康情報を活用して出生コホートの設定を試み、乳児健診と3歳児健診との関連について検討した。